

第22回全国循環器撮影研究会総会開催報告

日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構の設立報告

第22回全国循環器撮影研究会総会議事録（抄）

全循研のタベ印象記

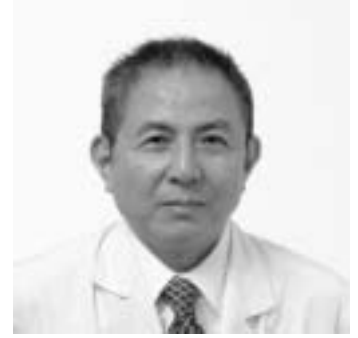
被ばく線量低減推進施設認定について

循環器被ばく低減技術セミナー開催案内

平成20年度全循研理事と推進母体研究会代表者名簿



就任挨拶



全国循環器撮影研究会 会長 若松 修
(NTT 東日本関東病院)

この度、第22回全国循環器撮影研究会総会(平成20年4月5日:横浜)におきまして会長を拝命いたしました循環器画像技術研究会代表の若松修(NTT 東日本関東病院放射線部技師長)です。循環器研究の第一線を常にリードしているこれらの研究会の会長として研究会発展のために全力でその任に当たりたいと考えています。安永前会長およびその事務局がリードしてこられたこの3年間に多くの事が実現の運びとなり、今年度からはそれらの結実を確認する年になるものと考えています。

今年度の事業については、本研究会のスローガンであります『全循研は被ばく低減と安全管理につとめます』を基本とした今までの以下の活動を継続して実施していきたいと考えます。

- 循環器被ばく低減技術セミナーの開催
- 被ばく線量低減推進施設認定の実施
- 全循研会誌, 全循研だよりの発行
- 学術研究会と総会の開催

会員の皆様および賛助会員の皆様、理事・監事の皆様、推進母体の皆様には今年度も安永前会長ならびに前事務局と同様に格段のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、今年2月には関連5団体で『日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構』が立ち上がり、その理事長には全循研元会長の江口陽一氏が就任されるとともに、委員には数名の全循研の会員が就任しています。そして今年8月には認定機構のもと『血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師』の第1回目の認定試験が開催されます。全循研はその認定ポイントの認定研究会としての登録もされていますので、全循研が推進するセミナー等を受講することで専門技師への道が一步近づきますので、全循研への加入、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、前会長の安永國広氏、事務局長の田辺智晴氏、情報局長の市田隆雄氏、経理局長の横山博典氏、そのほか事務局の皆様にご苦勞とご活躍に対して心より感謝を申し上げます。有難うございました。

開催報告

第 22 回 全国循環器撮影研究会総会・学術大会

日 時:平成 20 年 4 月 5 日(土) 17:30 ~ 21:00

会 場:横浜市開港記念会館

プログラム

1. 総会

2. 教育講演

「マルチモダリティ心臓解析(フュージョン)」

座長 松山赤十字病院 水谷 宏

愛媛大学医学部附属病院 放射線科 東野 博

3. 課題研究

「循環器撮影装置管理の標準化」

座長 兵庫医科大学病院 松本 一真

主任研究員:昭和大学病院 放射線部 武 俊夫

4. ワークショップ

「各モダリティにおける正しい線量測定方法」

座長 名古屋第二赤十字病院 瀬口 繁信

秋田県成人病医療センター 加藤 守

1) 血管造影検査

金沢大学医学部附属病院 飯田 泰治

2) C T 検 査

NTT 東日本関東病院 福地 達夫

3) 一般撮影検査

千葉大学医学部附属病院 藤淵 俊王

4) 術者被ばく

奈良県立医科大学病院 才田 壽一

5. 血管撮影・インターベンション専門技師試験制度の動向に向けての報告

日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構

理事長 江口 陽一

日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構の設立報告

日本血管撮影・インターベンション
専門診療放射線技師認定機構

理事長 江口 陽一



1. はじめに

わが国では、経皮的冠動脈形成術(percutaneous coronary intervention: PCI)や肝細胞癌に対する経カテーテル動脈塞栓術(transcatheter arterial embolization: TAE)などのインターベンションが疾病の治療手段として数多く施行されている。インターベンションは医師、放射線技師、看護師、臨床工学技士など多くのスタッフが関与している。また、他の放射線診療と比較して長時間放射線を利用する。このようなインターベンションを安全に施行するためには、それぞれの職種が高い専門性を持って協力すること、放射線の安全な使用が重要なポイントとなる。これらの現状を考慮して、血管撮影およびインターベンションに携わる診療放射線技師の専門性向上とインターベンションの安全性確保を目指して、関連5団体で『日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構』という名称で、平成20年2月3日に認定機構を設立した。認定機構のあらましを以下に記載する。

尚、第1回血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定試験および認定講習会を平成20年8月2日(土)から8月3日(日)にわたり開催する。詳細については、機構ホームページ“<http://plaza.umin.ac.jp/ivr-rt/>”を参考にしていきたい。

2. 認定機構の構成団体

設立当初の構成団体は、下記の5団体である。

- 社団法人 日本放射線技術学会
- 社団法人 日本医学放射線学会
- 社団法人 日本循環器学会
- 特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会
- 日本インターベンショナルラジオロジー学会

3. 認定機構の目的

機構定款の目的を以下に記載する。機構の役割は、専門技師の認定と高度な専門教育を継続的に行っていくことにある。

『本機構は、構成団体の連携により、統一した基準に基づいて、血管撮影とインターベンションに携わる専門の診療放射線技師の認定を行うことにより、診療放射線技師の専門的

な知識と技術を高めて、最新の医療技術に対応した血管撮影およびインターベンションの支援体制の確立を図るとともに、放射線機器の安全管理と放射線防護の最適化に努め、国民の健康に寄与することを目的とする。』

4. 申請資格

申請資格の条件については、下記の全てを満たす必要がある。

(1) 診療放射線技師の免許を有すること。

構成団体への在籍は条件から外してあるので、診療放射線技師であれば誰でも受験が可能である。

(2) 経年数

通算3年以上の血管撮影に関する診療業務の経験を有すること。

(3) 症例数

過去3年間にインターベンション50症例以上の経験を有すること。

(4) 学術成果

別表1に定める単位数を30単位以上取得していること。

(5) 装置の精度管理

機構が定める安全管理および品質管理に関する測定データを提出すること。提出する測定データの詳細については、機構ホームページ“<http://plaza.umin.ac.jp/ivr-rt/>”を参考にしていきたい。

(6) 認定講習会

認定試験を受けようとする者は、認定試験前日に開催される認定講習会を受講すること。

この講習会の目的は認定試験の勉強のためではない。受験者(施設)によりインターベンションを行う部位、件数も大きく異なることが予想されるため、受験者に基礎から最新のインターベンションの知識まで広く学んでもらい、知識の均てん化を目指すものである。

5. 更新資格

血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師の有効期間は5年とする。以後は所定の更新手続きを要する。更新資格の条件について以下のように定める。

- (1) 更新申請時において、血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師であること。
- (2) 過去5年間にインターベンション100症例以上の経験を有すること。
- (3) 更新申請時、過去5年間に於いて、別表1に示す単位表から30単位を取得していること。
- (4) 更新申請時において、過去5年間に構成団体のいずれかの全国規模の学会大会に1回以上出席していること。
- (5) 更新年度に本機構が主催する認定講習会を受講していること。

6. 最後に

以前にも書いたが、全国循環器撮影研究会は循環器撮影に関する唯一の団体であり、認定試験を受ける方の多くは全国循環器撮影研究会の会員であると思う。認定機構設立後は、皆様の手で、この認定制度が本当に必要なものとなるように育てていただきたいと願っている。

最後になりましたが、認定機構設立にあたっては全国循環器撮影研究会の安永前会長をはじめ事務局の皆様、推進母体の皆様にたいへんお世話になりました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

別表1 認定・更新単位表

事 項	単 位 数
本機構主催の講習会	
講演(筆頭者)	5
出席	5
本機構を構成する団体主催の講習会	
講演(筆頭者)	5
出席	2
本機構が認定した講習会	
講演(筆頭者)	5
出席	1
本機構を構成する団体主催の全国大会	
出席	4
発表(筆頭者)	3
発表(共同研究者)	1
講演(筆頭者)	5
シンポジスト(筆頭者)	4
本機構を構成する団体主催の地方大会	
出席	2
発表(筆頭者)	2
発表(共同研究者)	1
講演(筆頭者)	5
シンポジスト(筆頭者)	4
本機構が認定した関連学会の学会大会	
出席	2
発表(筆頭者)	2
発表(共同研究者)	1
講演(筆頭者)	5
シンポジスト(筆頭者)	4
本機構が認定した研究会	
出席	1
発表(筆頭者)	2
発表(共同研究者)	1
講演(筆頭者)	5
シンポジスト(筆頭者)	4
海外の学会	
出席	2
発表(筆頭者)	4
発表(共同研究者)	2
講演(筆頭者)	5
シンポジスト(筆頭者)	4
本機構構成団体学会雑誌への投稿論文	
筆頭著者	12
共同研究者	6
その他の学会雑誌、学術誌	
筆頭著者	6
共同研究者	3
海外学術誌	
筆頭著者	15
共同研究者	10
著書	
単著、共著、分担執筆	10
その他	
	機構で決定

第 22 回 全国循環器撮影研究会総会議事録(抄)

日 時:平成 20 年 4 月 5 日(土)17:30~21:30

会 場:横浜市開港記念会館

〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 1-6 (TEL:045-201-0708)

式次第

開会の辞 安永実行委員長

会長挨拶 安永全循研会長

議長選出 安永国広

1. 議事進行

- 1) 第1号議案
- 2) 第2号議案
- 3) 第3号議案
- 4) 第4号議案
- 5) 第5号議案
- 6) 第6号議案
- 7) 第7号議案

2. 閉会の辞



資料. 1 会員動向報告(相良健司)

資料. 2 情報局報告(市田隆雄:情報局長)

資料. 3 編集局報告(佐藤州彦, 福西康修)

資料. 4 専門委員会報告(安永国広:被ばく線量低減推進施設認定委員長)

資料. 5 専門委員会報告(横田 豊:テキスト改訂委員会委員長)

別紙 平成 20 年度 全循研理事と推進母体研究会代表者名簿

第 1 号議案 平成 19 年度活動報告

平成 19 年度活動報告 田辺事務局長より報告された。

第 21 回全国循環器撮影研究会総会・学術研究発表会を開催(横浜市開港記念会館)(H19.4)

第 22 回特別講演会・学術研究発表会の企画を若松総企画委員長に依頼(H19.8)

被ばく低減セミナーテキスト編集局長を横田豊編集委員長に依頼(H19.4)

だより No. 21 を発行(H19.6.30)

第 13 回循環器被ばく低減セミナー開催(H19.9.1)

場所:NTT 東日本関東病院(受講者数:29 名)

第 14 回循環器被ばく低減セミナー開催(H19.9.30)

場所:金沢大学医学部附属病院 1F 合同カンファレンスルーム他(受講者数:50 名)

第 15 回循環器被ばく低減技術セミナー開催(H19.12.1)

場所:横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター 6F 会議室(受講者数:38 名)

平成 19 年度 全国循環器撮影研究会常任理事会(H19.10.27)

場所:名古屋市内

だより No. 22 を発行(H19.11.15)

会誌第 20 巻を発行(H19.12)

平成 19 年度 全国循環器撮影研究会事務監査ならびに会計監査(H20.3.2)

場所:広島大学医学部附属病院

平成 19 年度 全国循環器撮影研究会理事会(H20.3.15)

場所: NTT 東日本関東病院 4 階 2AB 会議室
 だより No. 23 を発行(H20.3.15)
 事務局会議・会誌だより配送作業(10 回)

庶務報告(田辺智晴:事務局長)

委嘱状関係

各理事宛に委嘱状を送付

役員・要請依頼状

各理事の施設長宛に要請状送付

講師派遣に伴う執務(依頼状)

1. 東海循環器画像研究会(H19.6.23)
 大阪市立大学医学部附属病院 市田隆雄
 昭和大学藤ヶ丘 加藤京一
2. 第 13 回被ばく低減セミナー(H19.7.1)
 東京大学医学部学長宛に中川恵一助教授の講師派遣依頼状を送付
3. 愛媛大学医学部附属病院 東野博先生(H19.11)
4. 千葉大学医学部附属病院 藤淵俊王
5. NTT 東日本関東病院 福地達夫
6. 金沢大学医学部附属病院 飯田泰治

被ばく低減セミナー関係

第 13・14・15 回の講師派遣依頼状受理

修了書の発行および送付

セミナー受講生募集の案内

施設利用許可願い文書の送付

会誌・だより原稿の執筆依頼に伴う執務

1. 九州大学病院 小川和久氏宛
2. シーメンス旭メディテック 渡邊 隆史氏宛
3. テラリコン・インコーポレイテッド 清水聡氏宛
4. 東北大学医学部保健学科 千田浩一氏宛
5. 各推進母体へ外国文献執筆依頼・施設紹介依頼
6. 第 22 回総会・学術研究発表会の発表者に講演依頼状・前抄録依頼状・後抄録依頼状送付
7. 著者校正原稿を依頼

広告関係

各メーカーに広告依頼状送付

協力していただけるメーカーへ広告要綱の送付

協力していただいたメーカーへお礼状・広告費の領収書・または請求書を送付

理事・推進母体との連絡業務

理事会・常任理事会監査開催の連絡

議事録の送付

議案事項の事前連絡

平成 20 年度理事の推薦依頼文書を送付

その他の執務

会誌・だより編集および配送業務

平成 19 年度 全循研の各関係者の名簿を作成

大学病院医療情報ネットワーク(UMIN)へ代表者・事務局変更届けを送付

第 2 号議案 平成 19 年度決算報告
横山経理局長欠席のため田辺事務局長より報告された

平成 19 年度 全国循環器撮影研究会収支決算書
(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

収入の部

勘定科目			予算額	決算額	備考
大科目	中科目	小科目			
会費収入			2,680,000	2,488,160	
	会費収入		1,290,000	1,164,000	
		一般会員会費	1,050,000	894,000	
		賛助会員会費	240,000	270,000	9 社
	登録費収入		140,000	85,000	
		研究会参加登録費	140,000	85,000	85 名
	広告費収入		1,250,000	1,239,160	
		会誌掲載広告費	1,250,000	1,199,160	24 社
		全循研だより広告費	0	40,000	2 社
雑収入			150,300	121,663	
	利息		300	2,663	
	テキスト代	被ばく低減セミナーテキスト代	150,000	118,000	
	その他		0	1,000	セミナー修了証再 交付費用
当期収入合計 (A)			2,830,300	2,609,823	
前期繰越金 (B)			1,186,083	1,186,083	
収入合計 (C)=(A+B)			4,016,383	3,795,906	

第 3 号議案 平成 19 年度監査報告
平成 19 年度監査報告 水谷・景山監査委員より報告された。

平成 19 年度監査報告
全国循環器撮影研究会会則 21 条の規定により、監査を行ったので下記の通り報告します。

記

1. 業務監査

会務については、常任理事会および理事会に出席して担当理事の業務報告審議を聴取すると共に各種の公文書および議事録文書綴等を閲覧した。

2. 会計監査

財務については、平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 1 日までの、会計収支計算書および証拠書類、その他関係文書を審査した結果、適正に間違いなく処理されていることを認めます。

平成 20 年 3 月 2 日
全国循環器撮影研究会 監事 水谷 宏
景山貴洋
(印省略)

支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	備 考
大科目	中科目	小科目			
事業費			2,850,000	2,260,462	
	研究発表会費		310,000	87,179	
		会場費	200,000	87,179	
		講師料	50,000	0	
		実行委員役務費	60,000	0	
	会 誌 費		1,500,000	1,286,199	
		印刷製本費	1,250,000	1,104,199	
		通信運搬費	250,000	182,000	
	研究助成金		240,000	209,594	
		学術奨励費	200,000	100,420	
		講演助成金	40,000	109,174	
	諸委員会費		800,000	677,490	
		セミナー開催助成	750,000	301,260	
		委員会活動費	50,000	376,230	
管理費			495,500	533,045	
	会議費		70,000	31,822	
		常任理事会費	20,000	31,822	
		理事会費	50,000	0	
	旅費交通費		250,000	323,310	
		常任理事会・監査旅費	250,000	323,310	
		理事会旅費	0	0	
	事務局運営費		170,000	177,913	
		会議費	100,000	0	
		通信費	50,000	32,390	
		消耗品費	20,000	145,523	
	ホームページ運営費		0	0	
		メンテナンス費	0	0	
	予備費		5,500	0	
		雑費	5,500	0	
当期支出合計 (D)			3,345,500	2,793,507	
当期収支差額 (A) - (D)			-515,200	-183,684	
次期繰越収支額			670,883	1,002,399	

第 4 号議案 平成 20 年度活動計画案

平成 20 年度活動計画 田辺事務局長より報告された

- (1) 第 22 回全国循環器撮影研究会総会・学術研究発表会の開催(H20.4.5)
- (2) 会誌第 21 巻, 会員名簿, 全循研だよりの発行について
会誌第 21 巻, 平成 20 年 12 月発行予定
全循研だよりの発行, 発行回数は 3 回の予定
- (3) 平成 20 年度研究助成について
一般研究助成 ... 応募なし
課題研究助成 ... 応募なし
- (4) 循環器被ばく低減技術セミナーの開催について
第 16 回開催予定: 中四国循環器撮影技術研究会(夏)
第 17 回開催予定: 循環器画像研究会(9 月 6 日)
第 18 回開催予定: 北海道アンギオ研究会(9 月)
第 19 回開催予定: 循環器画像研究会(12 月)
- (5) ホームページと電子メールによる情報提供
平成 20 年度もホームページと電子メールによる情報提供
ホームページ講座の執筆依頼
- (6) 推進母体研究会への講師推薦・派遣
- (7) 被ばく低減施設認定証の発行

第 5 号議案 平成 20 年度予算案

横山経理局長欠席のため田辺事務局長より報告された

平成 20 年度 全国循環器撮影研究会収支予算書(案)

(平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日)

収入の部

勘定科目			予算額	備考
大科目	中科目	小科目		
会費収入			2,480,000	
	会費収入		1,140,000	
		一般会員会費	900,000	300 名
		賛助会員会費	240,000	8 社
	登録費収入		140,000	
		研究会参加登録費	140,000	
	広告費収入		1,200,000	
		会誌掲載広告費	1,200,000	24 社
		全循研だより広告費	0	
雑収入			150,300	
	利息		300	
	テキスト代	被ばく低減セミナーテキスト代	150,000	150 冊
当期収入合計(A)			2,630,300	
前期繰越金(B)			1,002,399	
収入合計(C)=(A+B)			3,632,699	

支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	備 考
大科目	中科目	小科目		
事業費			2,810,000	
	研究発表会費		210,000	
		会場費	100,000	
		講師料	50,000	
		実行委員役務費	60,000	
	会 誌 費		1,500,000	
		印刷製本費	1,250,000	会誌, だより印刷代
		通信運搬費	250,000	会誌, 全循研だより発送費
	研究助成金		300,000	
		学術奨励費	200,000	課題研究助成金
		講演助成金	100,000	講師派遣旅費助成
	諸委員会費		800,000	
		セミナー開催助成	600,000	被ばく低減セミナー, テキスト印刷費
		委員会活動費	200,000	
管理費			595,500	
	会議費		120,000	
		常任理事会費	20,000	会場費, 日当
		理事会費	100,000	会場費, 日当
	旅費交通費		300,000	
		常任理事会・監査旅費	300,000	交通費
	事務局運営費		170,000	
		会議費	100,000	事務局引継ぎ, 事務局運営会議費, 役務費
		通信費	50,000	各種通信用切手代, 郵送費
		消耗品費	20,000	事務用品等
	ホームページ運営費		0	
		メンテナンス費	0	ホームページ運営費
	予備費		5,500	
		雑費	5,500	
当期支出合計 (D)			3,405,500	
当期収支差額 (A) - (D)			-775,200	
次期繰越収支額 (C) - (D)			227,199	

第 6 号議案 平成 20 年度役員選出

田辺事務局長より報告された

(1)平成 20 年度

1. 役員選出:平成 20 年度

会長候補:若松 修(循環器画像技術研究会)

事務局長:加藤京一(循環器画像技術研究会)

2. 監査・役員選出について

監査委員:景山貴洋(循環器画像技術研究会)

:米沢正雄(北陸アンギオ研究会)

3. 専門委員選出

学術委員会:水谷宏,小川和久

編集委員会:佐藤州彦,井上勝広,入沢佳弘

総会企画委員会:田辺智晴,萩原充人,瀬口繁信

被ばく低減推進施設認定専門委員:若松 修(委員長)

被ばく低減セミナーテキスト編集委員:新年度体制が整い協議する。

第 1 号議案から第 6 号議案まで承認された。

第 7 号議案 その他

【安永会長より】

I・S 研究会がしばらく活動を休会する説明があった。

【資料. 1】

会員動向報告(相良健司)

内訳 推進母体	(A)	(C)	(B)			(G)	(H)	(I)	(J)
			(D)	(E)	(F)				
北海道アンギオ研究会	14	12			2	12	8	85.7	66.7
東北循環器撮影研究会	69	60		1	10	61	42	87.0	70.0
新潟アンギオ画像研究会	45	43			2	43	16	95.6	37.2
循環器 I. S 研究会	14	4			10	4	1	28.6	25.0
循環器画像技術研究会	75	67			8	68	49	89.3	73.1
東海循環器画像技術研究会	18	17	1		2	16	13	94.4	76.5
北陸アンギオ研究会	11	13	2			11	12	118.2	92.3
関西循環器撮影研究会	57	61	6		2	55	51	107.0	83.6
中四国循環器画像技術研究会	10	12	4		2	8	10	120.0	83.3
九州循環器撮影研究会	28	28	1	1	2	27	19	100.0	67.9
メーカー	25	22	1	1	5	23	13	88.0	59.1
無所属及び不明	59	68	15		6	54	50	115.3	73.5
合計	425	407	30	3	51	382	284	95.8	69.8

(A) 2006 年度会員総数 (B) 2007 年度会員数 () 内は内訳 (C) 会員総数 (D) 新入会 (E) 再入会 (F) 退会 (G) 2006 年度会費納入者数 (H) 2007 年度会費納入者数 (I) 会員増減前年比 (%) (J) 会費納入率 (%)

【資料. 2】

情報局報告(市田隆雄:情報局長)

- 2007 年 4 月 9 日 号外のメールマガジンを発送
- 2007 年 4 月 11 日 推進母体 関西循環器撮影研究会 第 90 回セミナーをホームページに掲載
- 2007 年 4 月 19 日 91 号のメールマガジンを発送
- 2007 年 4 月 20 日 第 21 回総会・学術大会・全循研の夕べの開催報告をホームページに掲載
- 2007 年 4 月 30 日 被ばく線量低減推進施設認定の申請に関する情報をホームページに掲載
- 2007 年 5 月 5 日 推進母体 循環器画像技術研究会 第 235 回定例会をホームページに掲載
推進母体 東北循環器撮影研究会 第 46 回定例会をホームページに掲載
推進母体 東海循環器画像研究会 第 27 回定例会, 第 13 回総会をホームページに掲載
推進母体 関西循環器撮影研究会 サマーセミナーをホームページに掲載
第 8 回千葉アンギオ技術研究会開催をホームページに掲載
- 2007 年 5 月 8 日 92 号のメールマガジンを発送
- 2007 年 5 月 21 日 平成 19 年度全国循環器撮影研究会会長挨拶をホームページに掲載
- 2007 年 5 月 27 日 推進母体 循環器画像技術研究会 第 236 回定例会をホームページに掲載
- 2007 年 6 月 3 日 推進母体 新潟アンギオ画像研究会 第 57 回定例会をホームページに掲載
- 2007 年 6 月 5 日 93 号のメールマガジンを発送
- 2007 年 7 月 1 日 第 13 回 循環器被ばく低減セミナー開催をホームページに掲載
第 14 回 循環器被ばく低減セミナー開催をホームページに掲載
第 15 回 循環器被ばく低減セミナー開催をホームページに掲載
推進母体 循環器画像技術研究会 第 237 回定例会をホームページに掲載
推進母体 循環器画像技術研究会 サマーフレッシュセミナーをホームページに掲載
第 8 回近畿トランスラディアル研究会 開催をホームページに掲載
- 2007 年 7 月 3 日 94 号のメールマガジンを発送
- 2007 年 7 月 30 日 全循研だより No. 21 を発行情報をホームページに掲載
- 2007 年 8 月 7 日 95 号のメールマガジンを発送
95 号よりメールマガジンの配送方式をメールングリスト形式へ変更
照射野重複シミュレーション用ソフト「Area Stamper for PCI」をホームページに掲載
スライド「血管造影室に必要な放射線測定」をホームページに掲載
- 2007 年 8 月 20 日 血管模型セミナーをホームページに掲載
- 2007 年 8 月 31 日 認定施設をホームページに掲載
- 2007 年 9 月 5 日 ホームページのサイドフレーム内容を更新
推進母体 循環器画像技術研究会 第 238 回定例会をホームページに掲載
推進母体 関西循環器撮影研究会 第 91 回定例会をホームページに掲載
推進母体 東海循環器画像研究会・サマーセミナーをホームページに掲載
第 25 回「医療放射線の安全利用研究会」フォーラムをホームページに掲載
- 2007 年 9 月 11 日 第 13 回被ばく低減セミナーの報告を掲載
- 2007 年 9 月 12 日 96 号のメールマガジンを発送
- 2007 年 9 月 14 日 施設認定に関する Q&A と申請書類の見本をホームページに掲載
- 2007 年 10 月 1 日 第 15 回被ばく低減セミナーのプログラムをホームページに掲載
推進母体 循環器画像技術研究会 第 239 回定例会をホームページに掲載
被ばく防止ガイドラインをホームページに掲載
- 2007 年 10 月 2 日 推進母体 新潟アンギオ画像研究会 第 58 回定例会をホームページに掲載
- 2007 年 10 月 4 日 推進母体 関西循環器撮影研究会 平成 19 年度 特別講演会をホームページに掲載
- 2007 年 10 月 5 日 被ばく線量低減推進施設の取得施設を更新
97 号のメールマガジンを発送
- 2007 年 11 月 1 日 98 号のメールマガジンを発送
- 2007 年 11 月 4 日 推進母体 循環器画像技術研究会 第 240 回定例会をホームページに掲載
- 2007 年 11 月 14 日 被ばく線量低減推進施設の取得施設を更新

2007 年 11 月 19 日	被ばく線量低減推進施設の取得施設を更新
2007 年 11 月 21 日	推進母体 関西循環器撮影研究会 第 92 回定例会をホームページに掲載
2007 年 11 月 22 日	全国循環器撮影研究会だより No. 22 の発刊情報をホームページに掲載
2007 年 11 月 26 日	推進母体 循環器画像技術研究会 第 241 回定例会をホームページに掲載
2007 年 12 月 7 日	99 号のメールマガジンを発送
2007 年 12 月 25 日	被ばく線量低減推進施設の取得施設を更新
2008 年 1 月 4 日	100 号のメールマガジンを発送
2008 年 1 月 8 日	被ばく線量低減推進施設の申請書式変更をホームページに掲載 全国循環器撮影研究会誌 No. 20 の発刊情報をホームページに掲載
2008 年 1 月 16 日	第 13 回被ばく低減セミナーのアンケート結果をホームページに掲載 第 15 回被ばく低減セミナー開催報告をホームページに掲載
2008 年 1 月 18 日	第 22 回 全国循環器撮影研究会総会・学術大会のお知らせをホームページに掲載
2008 年 1 月 22 日	平成 18 年度課題研究をホームページに掲載
2008 年 2 月 5 日	全国循環器撮影研究会タベのお知らせをホームページに掲載
2008 年 2 月 7 日	推進母体 循環器画像技術研究会 第 242 回定例会をホームページに掲載 推進母体中四国循環器撮影技術研究会 第 4 回広島血管 Imaging 技術研究会をホームページに掲載
2008 年 2 月 8 日	血管模型セミナーのページに次回セミナー情報を掲載
2008 年 2 月 9 日	101 号のメールマガジンを発送
2008 年 2 月 11 日	被ばく線量低減推進施設の取得施設を更新

[資料. 3] 編集局報告(佐藤州彦, 福西康修)

全国循環器撮影研究会だより(No21)500 部 発行日:2007 年 6 月 30 日
 全国循環器撮影研究会だより(No22)500 部 発行日:2007 年 11 月 15 日
 全国循環器撮影研究会だより(No23)600 部 発行日:2008 年 3 月 15 日
 会誌 20 巻(600 部)印刷・製本・発送(2007 年 12 月)
 会誌 20 巻の国立国会図書館へ納本(2007 年 12 月)

[資料. 4] 平成 19 年度被ばく線量低減推進施設名簿

	施設名	所属推進母体	申請年月日
1	富士市立中央病院	循環器画像技術研究会	2007 年 5 月 1 日
2	青森労災病院	東北循環器撮影研究会	2007 年 5 月 18 日
3	昭和大学藤が丘病院	循環器画像技術研究会	2007 年 5 月 30 日
4	秋田県成人病センター	東北循環器撮影研究会	2007 年 8 月 1 日
5	兵庫県立尼崎病院	関西循環器撮影研究会	2007 年 8 月 8 日
6	昭和大学横浜市北部病院	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 2 日
7	NTT 東日本関東病院	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 15 日
8	横浜市立大学附属総合医療センター	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 20 日
9	恩賜財団済生会横浜市東部病院	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 6 日
10	埼玉県立循環器・呼吸器センター	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 25 日
11	昭和大学病院	循環器画像技術研究会	2007 年 10 月 9 日
12	医療法人 康仁会 西の京病院	関西循環器撮影研究会	2007 年 10 月 25 日
13	兵庫医科大学病院	関西循環器撮影研究会	2007 年 9 月 25 日
14	医療法人 雪ノ聖母会聖マリア病院	九州循環器撮影研究会	2007 年 10 月 6 日
15	済生会山形済生病院	東北循環器撮影研究会	2007 年 10 月 31 日
16	山梨大学医学部附属病院	循環器画像技術研究会	2007 年 12 月 10 日
17	市立岸和田市民病院	関西循環器撮影研究会	2008 年 1 月 30 日
18	独立行政法人国立病院機構岩国医療センター	中四国循環器画像技術研究会	2008 年 2 月 18 日

[資料.5] 専門委員会報告(横田豊:テキスト改訂委員会,委員長)

テキスト改訂委員会活動報告

報告者:テキスト改訂委員会,委員長 横田 豊

全循研,循環器被ばく低減技術セミナーテキスト改訂委員会

平成 19 年度テキスト改訂委員

- ・ 横田 豊 滋賀医科大学附属病院
- ・ 加藤 京一 昭和大学藤が丘病院
- ・ 中田 充 東北大学医学部附属病院
- ・ 才田 壽一 奈良医科大学附属病院
- ・ 相良 健司 大阪府立泉州救命救急センター
- ・ 佐野 敏也 国立病院機構,大阪医療センター

以上6名

1. 平成18年度版テキストの検定…………平成18年12月20日～平成19年6月30日
2. 校正作業…………平成19年6月30日～平成19年7月30日
3. 安永会長へ被ばく低減技術ガイドラインの実践と啓蒙を—を依頼 平成19年5月20日
4. テキスト2007年改訂版印刷製本発注 ……平成19年8月10日
5. テキスト2007年改訂版製本 ……平成19年8月25日

2007年版循環器被ばく低減技術セミナーテキスト費用支出

支 出	適 用
¥3,990	テキスト2007年版(委員等資料)・CD-R等発送料
¥630	テキスト版下製作(プリント用紙)
¥8,460	テキスト版下製作(インクカートリッジ)
¥360,000	2007年版テキスト製本代
¥2,730	2007年版テキスト・CD-R等を印刷所～発送料
¥375,810	支出合計

「全循研の夕べ」に参加して

元会長 花山 正行

「全循研の夕べ」の懇親会は 2008 年 4 月 4 日(金曜日)横浜桜木町ワシントンホテルで多数の会員参加の元で開催されました。懇親会をスタートするに当たっては、安永会長から参加者へのお礼、会の運営状況並びに「血管撮影専門技師認定」の経過報告等がありました。続いて、ご指名で私が乾杯の音頭をとらせていただき、懇親会がスタートいたしました。私事ではありますが、今年 3 月 31 日を持って、大阪大学医学部附属病院を定年退職いたしました。皆様のおかげを持ちまして、大過なく定年を迎えることができました。会員の皆様方には心温まるご指導とご協力により会の運営が出来ました事を感謝しております。久方ぶりにお会いする方々と近況報告を交わし、歓談のひと時を過ごすことができました。思えばこの研究会の発足の経緯は地方研究会で活動を盛んにしている方々に声をかけたのがはじまりです。当時、循環器系の撮影技術にはいろいろと問題を抱えていました。循環器撮影技術に携わる専門技師として、技術水準の向上を目指すためには全国的な評価方法の確立が必要でした。本研究会は 1985 年、第 13 回日本放射線技術学会秋季大会(名古屋)において、加賀(元山形大)、中澤(昭和大)、新開(元九州大)氏に呼びかけ 2 年間の準備期間を得て、第 1 回目を 1987 年 4 月日本教育会館(東京)で長谷川会長(元心臓血管研究所附属病院)のもとで開催いたしました。以来、

毎回多くの参加者があることは会員から評価されてきているものと考えています。本研究会は心臓領域に関するテーマで開催してきましたが、循環器全般の領域を取り上げて欲しいとの要望もあり、名称を「全国シネ撮影技術研究会」から「全国循環器撮影技術研究会」と改めました。血管撮影専門技師認定についてですが研究会におきましても高度な医療技術を取得する一環として、毎年各地で統一講習会「循環器被曝低減技術セミナー」を開催しています。専門技師認定に関しては関連団体に協力を要請し、ご理解が得られ認定制度が認められました。2008 年 8 月には 1 回目の講習会が開かれ「血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師」という名称で誕生します。血管系 IVR に携わる技師の専門的な知識と技術を高め、医療への貢献と安全な医療にむけて、大きな成果が上げられるものと考えます。

懇親会の締めは第 1 回目から参画されてきた、新潟アンギオ画像研究会元会長の新潟大学医学部附属病院の吉村先生が務められました。吉村先生は今年定年退官されましたが長い間新潟アンギオ画像研究会のリーダとして活躍され、本研究会の運営に多大な成果を上げてこられました。

最後に認定制度に携わってこられた会長、役員の方々に敬意を表します。また、関連団体の方々に対しても感謝を申し上げます。

「全循研の夕べ」に参加して

東北循環器撮影研究会 加藤守

平成 20 年 4 月 4 日に総会・学術大会に先がけて恒例の「全循研の夕べ」が開催されました。私は恥ずかしながら今回が初めての参加でした。理由は、私の職場は横浜から遙か彼方の秋田にあり、職場には診療放射線技師が 6 名しかおらず、学会の出張と言っても平日に二人も三人も悠々と出かけて行けないのが実情だからです。金曜日の慌ただしい業務をこなし、一段落した午後から早退しても夕方開催に間に合う様なフライトスケジュールもないのです。しかし、今年は必ず出席してやるという意気込みを、早々と周りにアピールしながら仕事も十二分にすることで技師長の承諾も得る事が出来ました。

なぜ今年の「全循研の夕べ」に参加する事に拘ったのか？それには二つの理由がありました。一つは、見も知らない私に事あるごとに声をかけて下さり、Angio 業務について

ご指導頂いた新潟大学医歯学総合病院の吉村先生が今年の三月でご退職なされたからです。全循研会員番号 1 番を担っている重鎮に一言「お疲れさまでした。」とご挨拶したかったからです。二つ目は、現在全循研の被ばく線量低減推進施設認定委員会の委員を務めさせて頂いております。私のような若輩者が被ばく関連では著名な先生方とメール会議を通して、色々なテーマについて議論できるのは、私にとってとても貴重な経験であり、全てが勉強になる事ばかりでした。迷惑をお掛けする事の方が多かったかもしれませんが、そんな方々に、是非ご挨拶しておきたかったのです。

当日、全循研の理事も務めた当院の土佐技師長に連れられ少し早めに会場に着きましたが、既に 30 名位は集まっていました。前室で登録を済ませ名札を装着する頃には会場に入る事ができました。うわさ通りの絶景です。一面の大き

な窓からは「みなとみらい」の絶景が一望できました。正にみなとみらいのエントランスホテルならではの眺望です。時間が経ち辺りが暗くなると、ハーバライトが水面に反射しより一層素晴らしい夜景を満喫する事ができました。

会場の中の様子は、初めは全循研の推進母体単位と考えられるいくつかの集団が散在していましたが、それも長続きはしませんでした。乾杯が始まった頃には、約 60 人位が入り乱れて皆楽しそうにお酒を酌み交わしていました。そんな集団の一つの中央に吉村先生がいらっしゃいました。にこやかな表情をされ、周りの方々も非常に和やかなムードでした。夕べの雰囲気もそうですが、全循研の体質もまさにこのように人を和ませ、そして人と人の間に垣根を作らず、自由に誰とでも打ち解けて話ができる様な環境を感じます。吉村先生の世界観が全循研にも伝播した様な気がします。技師長に面通しをして頂き、お世話になっている認定委員の

方々への挨拶をして回りながら、いろいろなお話を聞かせていただきました。会場ではその頃、各地から持ち込まれた地酒で大いに盛り上がりを見せていました。各推進母体の代表および賛助会員様の挨拶などもあり、大変お話の上手な方々がより一層会場を沸かせておりました。ほんの数時間でしたが、たくさんの方々とお話が出来、地酒と横浜の素晴らしい夜景に酔いしれ、明日の本番のことも考えずに深酒をしてしまいました。大変有意義なそして楽しい一時を過ごす事ができました。実行委員の皆様のお苦勞に感謝致します。

最後に、全循研の会長・施設認定委員長として我々を牽引して下さいました安永先生、これからその大役を引き継いだ若松先生、施設認定委員の諸先生方、そして会員の皆様、微力ではありますが、全循研のためにこれからも精一杯努力させていただきますので、ご指導よろしくお願ひいたします。

全循研の夕べと地酒祭りに参加して

浜松医科大学医学部附属病院 放射線部 竹井泰孝

平成20年4月4日、横浜桜木町ワシントンホテルで開催された全循研の夕べと地酒祭りに参加させて頂いたので、ここに簡単に印象記を書かせて頂きます。

私がいつ頃からこの会に参加させて頂くようになったかははっきりと覚えていません。ただ初めて参加した時には知り合いはごく一部だけ、自分の周りには名前は存じているが面識がない、顔と名前が一致しない方ばかりでとても緊張して参加していたことを覚えています。しかし参加回数を重ねるうちに顔見知りもだんだん増えていき、今では数多くの掛け替えのない『つながり』を作ることができました。

この会は全国の著名な会員の先生方と直接お話することができる絶好の機会ではありますが、実は私は意外と人見知りするタイプなので最初は勇気を振り絞ってお話をしたように記憶しています。でもお話をしてみたら皆さんとても気さくな方ばかりで、宴が進むにつれ学会場では聞けないような面白いお話も多数伺うことができました。

学会は演題発表をする場だけでなく、勤務施設やメーカーという枠を超えた『つながり』を作っていく場でもあると考

えています。

特に全循研は『心カテ』という高い専門性が求められる領域に携わる技師仲間との横の『つながり』を作ることができ、検査のコツやヒント等を数多く教えて頂きました。またこの会で得られた『つながり』を上手く利用すると、全国の美味しいお店やお酒の情報などもはずすことなく得られることも良い点ですね。(笑)

団塊の世代が定年退職を迎える時代となり、この数年以内に各施設で世代交代が急速に進んでいくものと思われま。今回の夕べでは発足当初から関わってこられた何人かの先生方から『3月で定年を迎えた』というお話を伺い、これからは自分たちの世代が会を引っ張っていく立場になったことを強く認識させられました。

今後は全循研が素晴らしい研究会となるよう、微力ではありますが一会員として協力していきたいと思っております。

素晴らしい『つながり』と美味しい『お酒』に巡り会うため、来年も全循研の夕べに参加したいと思います。

お知らせ

被ばく線量低減推進施設認定の申請について

会員の皆様には、日頃は全国循環器撮影研究会（全循研）の活動と運営にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

被ばく線量低減推進施設認定につきましては、2004 年 6 月に 13 学会と 2 団体のオブザーバのもと「IVR に伴う放射線皮膚障害の防止に関するガイドライン」としてまとめられ、IVR に携わる施設への適用が開始されました。また、全循研の研究班が独自にまとめた「診療放射線技師がかかわる心臓カテーテル検査における透視線量及び被ばく低減技術のガイドライン」を普及させると共に「循環器被ばく低減技術セミナー」を 2001 年 11 月から各地で年間 2～4 回の開催をしています。

全循研は一貫して被ばく線量低減に向けて努力をしてきました。そんな中全循研専門委員会として、循環器画像技術研究会の加藤京一委員長を中心とする「被ばく線量低減推進施設認定基準作成委員会」を立ち上げ全国の推進母体から推薦して頂いた 7 名の委員で認定基準をまとめてもらいました。

「作成委員会」は認定基準をまとめて頂いた時点で展的に解散して、新に全循研会長を委員長として全国の

推進母体から推薦して頂いた 8 名（作成委員からの継続者も含む）で「被ばく線量低減推進施設認定委員会」を発足させました。

審査は書類審査でのスタートと致しました。4 月 5 日時点での認定施設数は 18 施設になっています。申請は別添の通りであります。また、「循環器被ばく低減技術セミナー」受講が必須となっております。全循研ご入会と共に是非セミナーの受講をお願いします。また、推進母体からの推薦も必要となりますので、お近くの推進母体に加入をお願いします。

また、今年 2 月には関連 5 団体の協力のもと、日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構が立ち上がり、その理事長には全循研元会長の江口氏が就任されるとともに委員には数多くの全循研の会員が就任しています。そして今年 8 月には機構のもと『血管撮影技師・IVR 専門技師』の第 1 回目の認定試験が開催されます。全循研はその認定ポイントの認定研究会としての登録もされていますので、全循研が推進されるセミナー等に受講に向けた取り組みで専門技師が一步近づきますので、全循研への加入、ご協力をお願いいたします。

被ばく線量低減推進施設認定委員長

全循研会長 若松 修

被ばく線量低減推進施設認定の申請書と申請方法

申請受付：随時受付中

審査方法：書類審査のみ(推進母体からの推薦が必要)

申請資格：1) 2) の両者を満たす施設

- 1) 全循研の会員が所属する施設であること。
- 2) その会員が被ばく低減セミナーを受講していること。

申請手順

1. 全循研の HP より「申し込み書類 1~3」と「透視線量・撮影線量の測定結果記入フォーム」をダウンロードする。
2. 申込者が以下の書類を推進母体に提出し、推進母体より署名をもらう。
 被ばく線量低減推進施設認定申請書(申し込み書類1 全循研ホームページからダウンロード)
 被ばく線量低減推進施設認定基準書(申し込み書類2 全循研ホームページからダウンロード)
 血管検査室基準についての回答(申し込み書類3 全循研ホームページからダウンロード)
 透視線量・撮影線量の測定結果を記載した記入フォーム(全循研ホームページからダウンロードした記入フォーム(excel)を使用して下さい。申請時は電子データファイルを添付願います。)
 被ばく低減セミナーの受講終了証書のコピー
 申請者は必ずメールアドレスを記入すること。
3. 申込者は推進母体から返信された書類を施設認定委員長に提出する。
4. 認定委員により可否について審議します。
5. 認定施設には事務局より認定証書を発行します。

(提出先)

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22

NTT 東日本関東病院 放射線部

若松 修(被ばく線量低減推進施設認定委員長)

Tel:03-3448-6226 Fax:03-3448-6591

推薦署名を依頼する推進母体代表氏名および所属施設

北海道アンギオ研究会	市川 和弘(北海道循環器病院)
東北循環器撮影研究会	江口 陽一(山形大学医学部附属病院)
新潟アンギオ画像研究会	入沢 佳弘(長岡赤十字病院)
循環器画像技術研究会	若松 修 (NTT 東日本関東病院)
東海循環器画像研究会	瀬口 繁信(名古屋第二赤十字病院)
北陸アンギオ研究会	新谷 光夫(富山大学附属病院)
関西循環器撮影研究会	横山 博典(国立循環器病センター)
中四国循環器画像技術研究会	水谷 宏 (松山赤十字病院)
九州循環器撮影研究会	梅津 芳幸(九州大学医学部附属病院)

なお、上記施設の住所については全国循環器撮影研究会誌 No.21 の名簿を参照してください。

会告

第 16 回循環器被ばく低減技術セミナー

開催日 : 平成 20 年 9 月 6 日(土)
開催推進母体研究会 : 循環器画像技術研究会
場所 : NTT 東日本関東病院

第 17 回循環器被ばく低減技術セミナー

開催日 : 平成 20 年 9 月 21 日(日)
開催推進母体研究会 : 中四国循環器画像技術研究会
場所 : 倉敷中央病院研修センター

第 18 回循環器被ばく低減技術セミナー

開催日 : 未定
開催推進母体研究会 : 北海道シネ撮影技術研究会
場所 : 未定

第 19 回循環器被ばく低減技術セミナー

開催日 : 平成 20 年 12 月 6 日(土)
開催推進母体研究会 : 循環器画像技術研究会
場所 : 横浜市立大学附属市民総合医療センター

詳細が決定次第全循研ホームページおよび会員向けメールマガジンでお知らせいたします。
開催期日により、回数に変更が生じることがあります。

会告

第 17 回循環器被ばく低減技術セミナー

開催日:平成 20 年 9 月 21 日(日)

場 所:講義---倉敷中央病院研修センター (<http://kchwww1/kchmenu/index.htm>)

実習---倉敷中央病院心臓カテーテル室

受講料:4000 円(テキスト代、昼食代を含む)

血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定対象講習会(単位 2 点)

予定受講者数:40~50 名

プログラム

08:30~	受付	
09:00(10分)	案内と挨拶	松山赤十字病院 水谷 宏
09:10(30分)	放射線の人体への影響(テキスト)	土谷総合病院 今田 直幸
09:40(30分)	X線装置による被曝低減(テキスト)	滋賀医科大学病院 横田 豊
10:10(30分)	散乱線と術者被曝低減(テキスト)	県立奈良病院 才田 壽一
10:40(40分)	線量測定法(テキスト)	山梨大学附属病院 坂本 肇
11:10(30分)	面積線量計による皮膚線量測定法	山梨大学附属病院 坂本 肇
11:40(20分)	測定実習説明	山梨大学附属病院 坂本 肇
12:00~	昼食	
12:45~	カテ室への移動	
13:00(60分)	測定実習	
	<1 班担当> 山梨大学附属病院 坂本 肇	
	<2 班担当> 松山赤十字病院 水谷 宏	
14:00(45分)	測定データの計算と説明, 質疑応答	山梨大学附属病院 坂本 肇
14:45~	講義室へ移動	
15:00(60分)	実践例発表	
	1)患者被曝低減	岩国医療センター 小野 剛史
	2)患者被曝低減	兵庫医科大学病院 松本 一真
	3)術者被曝低減	未定
16:00(45分)	被曝症例と被曝低減のガイドライン	松山赤十字病院 水谷 宏
16:45~	証書授与、閉会	

主 催 : 全国循環器撮影研究会
中四国循環器画像技術研究会

共 催 : 日本放射線技術学会
放射線防護分科会、放射線計測分科会

問い合わせ先 : 〒710-8602 岡山県倉敷市美和 1-1-1
倉敷中央病院 放射線センター
TEL:086-422-0210(内)3590
横田 忍 sy3571@kchnet.or.jp

別紙

平成 20 年度全循研理事と推進母体研究会代表者名簿

役 職	氏 名	勤 務 先	
会 長	若松 修	NTT東日本関東病院	
事 務 局 長	加藤京一	昭和大学藤が丘病院	
理 事	総会企画委員長(常任理事)	田辺智晴	大阪府立母子保健総合医療センター
	総会企画委員	萩原充人	横浜労災病院
	総会企画委員	瀬口繁信	名古屋第二赤十字病院
	編集委員長(常任理事)	佐藤州彦	みやぎ県南中核病院
	編集委員	井上勝広	北海道立小児総合保健センター
	編集委員	入沢佳弘	長岡赤十字病院
	学術委員長(常任理事)	水谷 宏	松山赤十字病院
	学術委員	小川和久	九州大学病院
監 事	景山貴洋	千葉県循環器病センター	
監 事	米沢正雄	金沢循環器病院	

事 務 局	庶 務 委 員 長	佐藤久弥	昭和大学横浜市北部病院
	会 計 委 員 長	大澤三和	昭和大学病院
	会 員 委 員 長	遠藤悟志	新葛飾ロイヤルクリニック
	編 集 委 員 長	今井宜雄	NTT東日本関東病院
	情 報 委 員 長	塩野谷 純	石心会 狭山病院
	会 場 委 員 長	石川栄二	横浜市立大学附属市民総合医療センター

推 進 母 体 代 表 者	北海道シネ撮影技術研究会	市川和弘	北海道循環器病院
	東北循環器撮影研究会	江口陽一	山形大学医学部附属病院
	新潟アンギオ画像研究会	入沢佳弘	長岡赤十字病院
	循環器画像技術研究会	若松 修	NTT東日本関東病院
	東海循環器画像研究会	瀬口繁信	名古屋第二赤十字病院
	北陸アンギオ研究会	新谷光夫	富山大学附属病院
	関西循環器撮影研究会	横山博典	国立循環器病センター
	中四国循環器画像技術研究会	水谷 宏	松山赤十字病院
九州循環器撮影研究会	梅津芳幸	九州大学病院	

2008 年 6 月 25 日現在

全国循環器撮影研究会だより (24)

発行日 : 2008 年 6 月 30 日

編集責任者 : 今井宜雄

編集者 : 芳澤康德, 小林理香, 池澤勇志

発行責任者 : 若松 修

事務局 : NTT 東日本関東病院 放射線部内

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22

03-3448-6226

印刷所 : 望月印刷株式会社(埼玉県さいたま市)